



繪圖 柳山  
 柳山遊跡誌  
 全

△4  
 3196

ル 4  
 4994





幸ふれば心は清く  
 二世に勝縁と結んた先承り  
 訪ふ人日に盡んが利  
 終ふに雲區不もあまき初  
 来ふ心もあまきもあまき  
 事は心もあまきもあまき

勢人事候思ひ集録  
 年と恒々集録一冊か  
 次か  
 貫首大主此言候を承り  
 事候  
 母事候許し候

しりばはるも志者く諸人に  
知る志も事成る所の也

享保十三戊申二月 鷹橋我武識之



○日光山名跡誌

柳下野国都賀郡日光山人王十代孫德天皇  
乃御宇神護景雲元年勝道上人法開基の里  
上人の洞小芳智於室乃八幡江く法誕生法父ハ  
垂仁帝第九乃皇子卷向於十有余代の孫若田  
氏高の友磨く一里法母ハ正二位大后吉田清磨  
乃真女なり父母嘗て子好き事と歎こ同洞  
出流山千手大士小諸く於里路ハ七日に満





なまに寺下野坂東三十二番乃礼ありとぬり○河  
幸町長三丁東例中程小福前町(の横たわりの町)寺  
中程小法寺乃入あり石列家神本地虚空蔵  
稲荷のえもありとて河幸町あり○鉢石町  
此町上中下三の小別あり下鉢石町東例小横町  
あり八丁女町といふ是より福前町(倉)と河幸町  
河坂屋敷あり下鉢石中程小室珠院宝蔵坊之小  
寺ありと河幸町観音堂あり運慶乃下野坂東の

礼ありの河幸町不見の鉢石山観音寺と云寺と  
と河幸町上小千手観音堂一字弘法大師乃法作あり  
上鉢石町東例塗物梳打曲物木河幸町あり  
右白根京町あり南町出はすを河幸町十三町あり  
△下馬 此所乃方石庵本と堂里森林の町  
△星宮 鉢石あり本寺ハ天童子形虚空蔵堂  
あり河幸乃河幸町小南河幸町出はす入峰の若敷  
乃堂あり河幸の宿と云毎奉極月廿六日在乃河幸下馬





河

今  
字  
本  
字

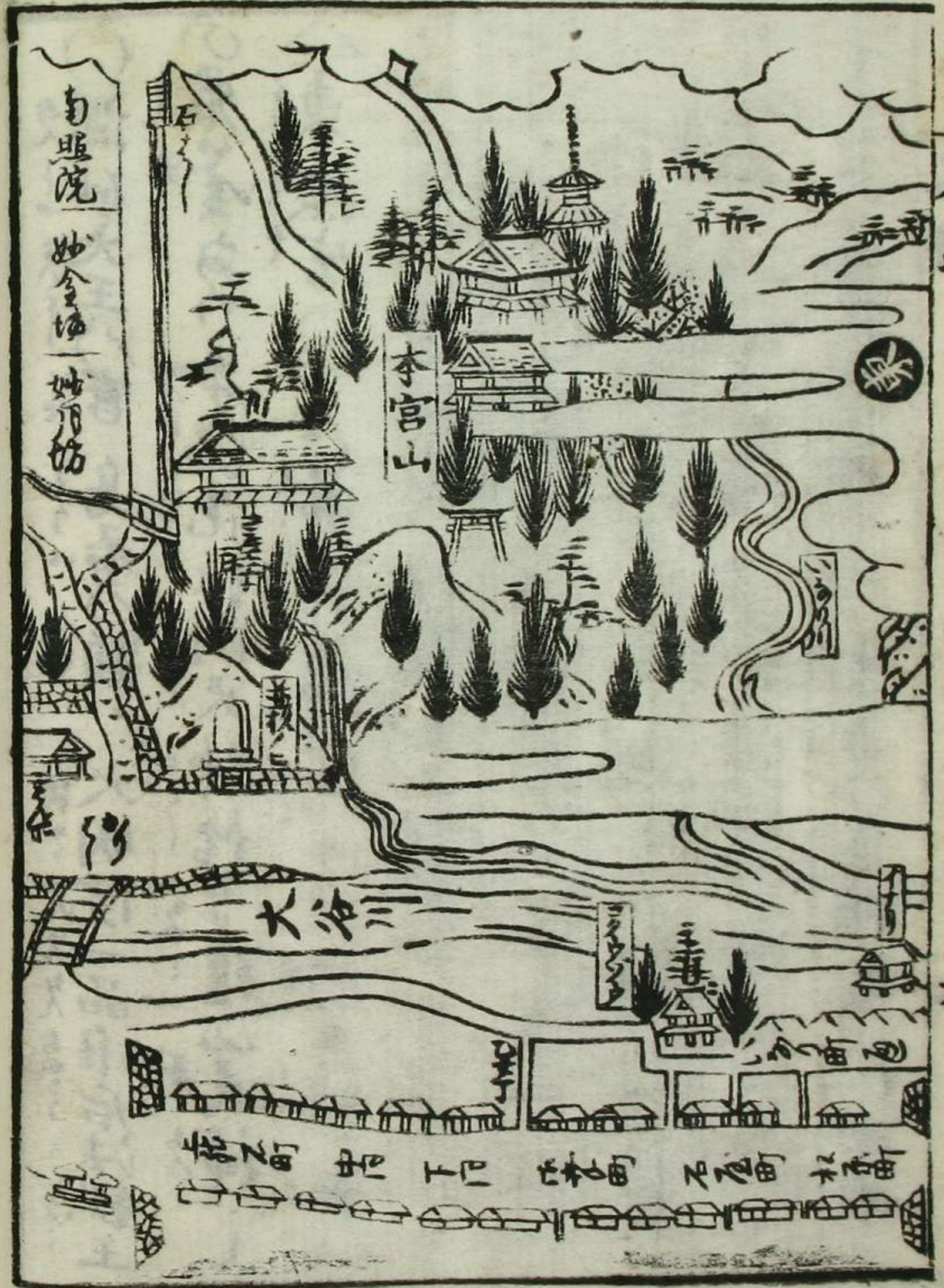
渡る橋の東に神事法楽所あり  
 常の橋の東に飯橋ありて恒年  
 ○飯橋 標于あり恒年乃人馬あきと渡る大谷川と云  
 川上平禪寺湖水の流なり橋向に御番あり回  
 六乃方の坂東山佛宗谷坊舎のた跡に坂下  
 ○碑あり是に 御神領標あり高所と所と海  
 並松平素門大吏湯寄進乃碑あり 同所の  
 見ゆる本宮乃社と云るなり 神橋向に

# 東照大権碑

○深砂大王乃宮 鳥居乃額に 大明院一品准后法親王  
 の震筆あり 本地毘沙門天神橋と續の天神し  
 △東照宮へのた跡 神橋乃丸なり 屯る坂と長坂  
 とのまを丁半程あり 回廊たふす 正月十七日九月十七日  
 御祭禮の時 橋本あり 橋本少く 三品立の御膳  
 儀に 俗人衆樂と奏し 橋くの所 規式あり  
 ○長坂のり中なる寺に 寺にふあり 内津土院と云  
 寺内小安建氏藤九郎 盛長の石塔あり 〇町

子亦

六



安君院 昭我城 唯心院

坊中 杖 疾 城  
坊泉 采 光  
坊 坊 坊

水觀坊 林光坊  
津太院 隆長寺

坊本 御

院高 親

名 跡

名 跡

名 跡

通りたの方所園の御敷地なりたの方所を坊  
 輪王寺の宮とすまるとんり石唐木をせり  
 ○石乃鳥居 是の黒田筑前守長政の流前におり  
 鉅石と割里南海敷百里と運く元和二年卯  
 沙寄進し御願の 後水尾院震輻した方  
 ○五重乃塔 是の酒井 横波も沙寄進し奉る  
 東の葉所 西の法院 吹萩 南の室中央大見  
 ○所敷 是の御宮跡 遺留の法時 下遷宮し

なる本なる法不みく二六時の撞と撞なり  
 嘉月十日公庭より毎年所湯とす 則  
 庭の洞乃金三あり  
 ○仁王御門前 此御門は石唐木に石焼籠兩基の  
 表接國司酒井横波も深大勝胡長所納の河石あり  
 ○御番所あり 此石乃の御所なり 此の御所  
 七詣と石石石垣の御所横三間解法ありあり  
 西河九河 此石乃の御所の御所なり

○仁王御門 仁王の御門 左右阿呼仁王長一丈式尺余裏のあり

唐獅子形此御門と入々たるに金燈籠石燈籠

ありありの然文ありありの御守納しと志のめ

○御藏云々此後ふ○御剛ありた方○楨一株

○御庇素束遣し御神馬三疋あり常ふ下

殿立 御祭礼の御しありあり○御番所

○御手水屋 此清水水屋みありあり柱はく建り

天井の彫物の海不飛龍ありあり水石鉢ハ肥前

佐賀の味主燭嶋信濃守肥前守石河守にて

御守納し素束の男女手洗ひに漱而してあり

○唐洞御華表 同たあり○一切経堂傳大士像

あり俗小苑仏と云々を石燈籠と志してあり

○鐘樓鼓樓 同た乃方以朝鮮あり獻上あり

廻り金燭臺あり并河蘭池あり献堂釣金燭臺

もあり同た乃方小御辨あり獻堂の檜燈あり

此燈籠ありつるは正月二日御祝式の時鳴と云



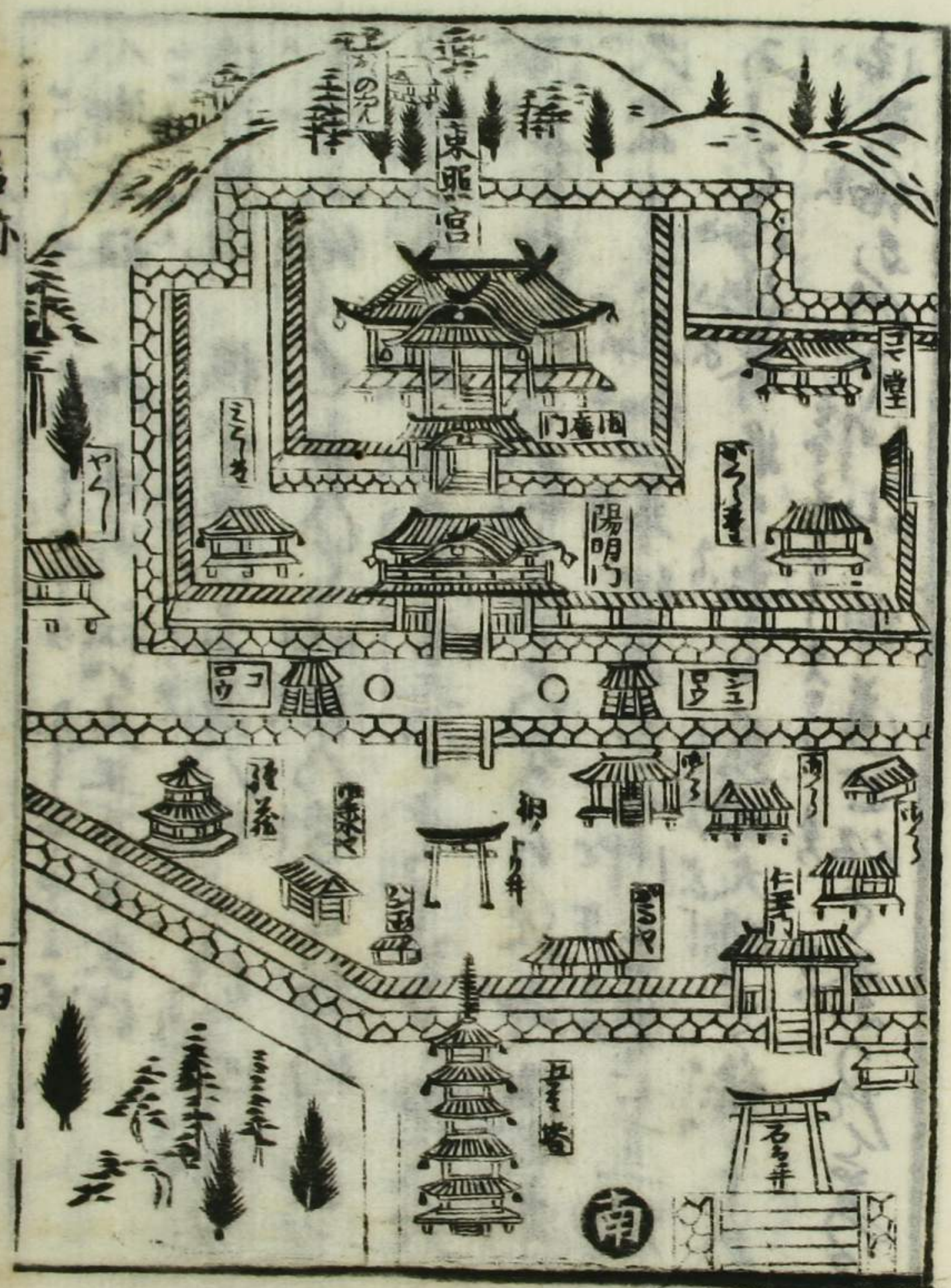




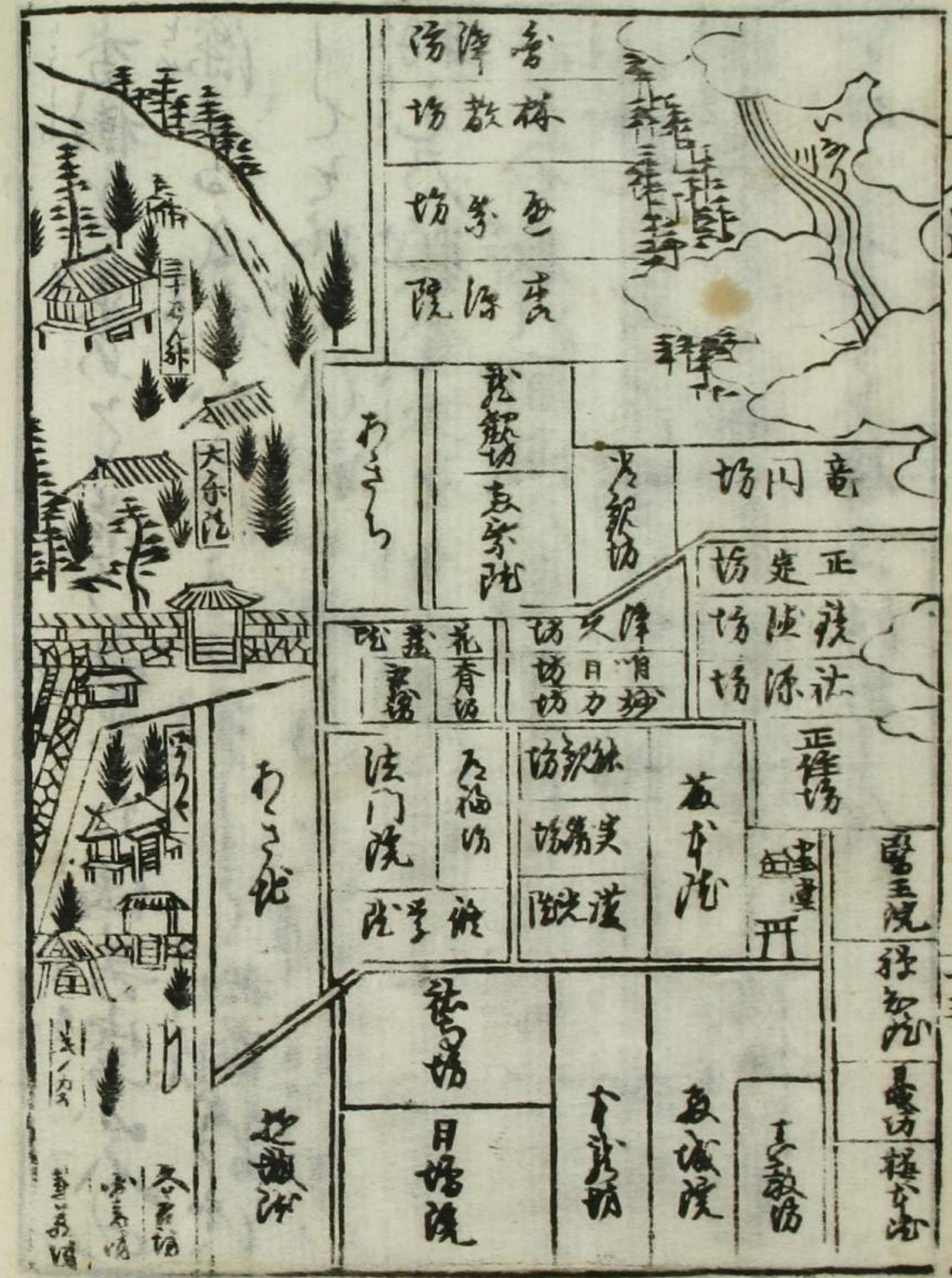




名亦



十四



名品

十五

御本社 抑當御社人王百有餘代  
 後陽成院 後水尾院 御定に當て天中弘  
 長將小御也少ひと吐捨乃骨を躬行て思  
 乃海八島沙平高藤唐去乃をくまらぬ  
 酒おまひ御をまらざるはなるり此御後世年  
 久安一と元和二年四月十七日御壽筭七十三歳  
 ありし御他界ありきと慈眼大師と縁トめ  
 湯築細のりく川山王神道とひく祭ありたる事

此御時 勅使下向

東照宮大権現と尊号と贈り世後人 御代  
 天下と掌乃内ふせざる勢あり老れ尾のり長  
 鶴乃警幾重のり水りて泰平を正千万事此達  
 是より成し給らん事印くふ當勢乃神徳  
 大なるにすもものなる御奉必の薬師留徳  
 光也身乃應作相殿い摩多羅神山王天推現之  
 おまこと 東照三社と申す毎春四月十七日

九月十七日御神事あり四月十六日以例幣使  
と下し給ひて宣命頭推くも氏江より 御名代  
とて高家元入浦泰勳河 御祭終る迄  
一々又名元二人泰勳則 御祭終る迄  
當社の御祝式嚴格ある事い中りく等言  
御座美の宮様御座  
あり一山此僧流社殿の御人仕わ  
天下安平乃涉行る事

○奥乃院 御奉社の後山ふあり 所室塔二宇あり  
洞より兼湯拜敷湯室藏あり湯敷いもふ  
泰清い下いし仁王湯いおたけ  
乃の七人 ○御別所大集降  
東照宮法別南寺なり毎日いあり 神依  
御つらりし妙り仁王湯いおたけい 新宮  
持印のる場あり是より三件堂とく二下  
る物衣のいふ

名跡

大

△相輪標 飛鳥傳教大師六十四句乃法教文と  
 紀し之巖山と銘り日本六所不達中やと  
 是六十余洲の諸所あり功徳無尽あり法を以て  
 善眼大師高山と云ふ建立ありとしは是かある  
 人倫の不及を以ての獸草木の類ひも佛界  
 得しや法を以て教を以て一見法縁の第一に在り  
 八量入るを減し未素の形く三悪道に  
 離るるなりしを疑あるなり甚深微妙法

有るものありりく記し  
 △新宮の鳥居 御額 正一位勳一等日光大権現  
 とあり一品宮に寛親王沙衣尊あり  
 △三佛堂 高山一乃大伽藍し中を以て弥陀長  
 九尺五寸千手馬頭上のく八尺寸慈覺大師の  
 四作あり日光三社大権現乃法中妙堂と云ふ  
 肉乾の隅に勝道上人乃法影あり良の隅に  
 軍荼利明王の像あり妙堂の端永きれを

略々と述るる一丁目とす

○常行堂 本堂は宝冠乃孫院に奉遷後、

摩多羅神立の堂に頼朝が遷す

とて後小頼朝の堂といふ元世堂は人王五十九代

宇多天皇の御宇寛和五年己卯年創あり

ありて指を於て八百五十有餘年と及び至る

○法華堂 本堂は曹賢菩薩鬼子母神土権利

三十番神傳教大師乃孫に於て此堂は行あり

人王五十三代淳和天皇此堂を天皇二己卯年建

立たり此堂は傳教大師法華經の法華經一部

納せありとていふ此堂のる乃あり是と二冊ほど也

△慈眼大師堂 天海法師あり寛永二十癸未年

十月二日入寂あり勝道上人より富山五十一代

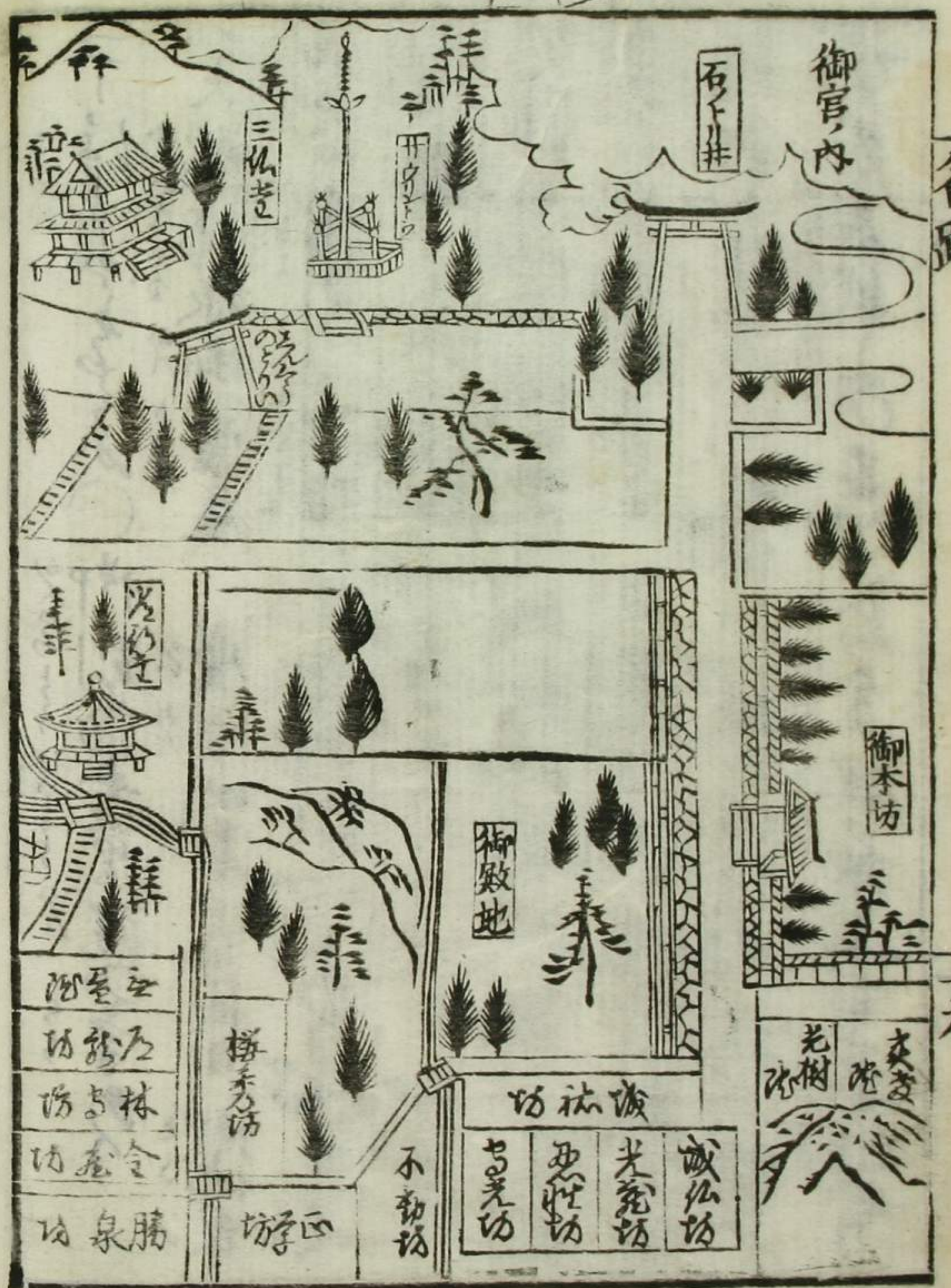
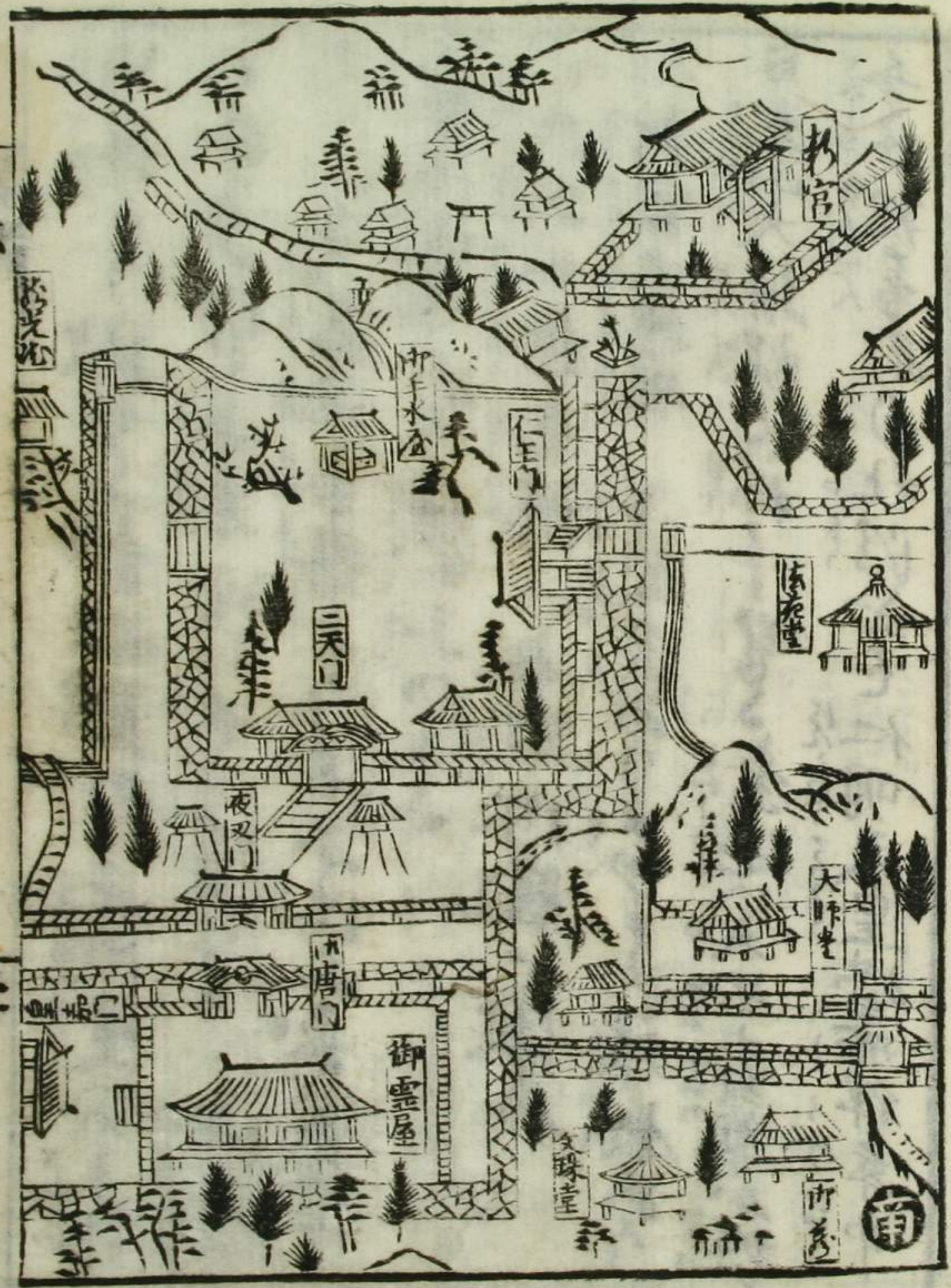
の御座主に於て中興の御用山あり凡

東照宮高きは鎮座ありて万代不易の基と

云ふ此の寺を今大師の御座ありて此の寺

片の山を今の大陣の法一辨の法也殿  
 乃ある御子水屋御三家法也殿のりは  
 与く石焼煮あり回水との方のたより○龜井  
 乃水○篇荷の中力○石佛乃家あり回水たの  
 小島山 御座主府殿所あり  
 本照院宮 久遠壽院准后 解脫院宮 大明院宮  
 法石塔あり回水○文殊堂大陣乃山本如堂し  
 求圓持堂系小鐘林經藏法供所ありられり

二丁ほどありふ ○ 御別當無量院の寺あり  
 八天猷院様御靈屋 慶安四年四月廿日 御地界  
 高山小入法あり法梅ハ先惣開小仁王あり次二天  
 門沙額ハ 後水尾院御書屋あり次二夜又門  
 次小法庵門ハ瑞離御殊殿御本堂ありて此  
 法堂乃花美形あり 東照宮ハこれト殿との  
 彩色もさかばら七室と滋あり 御梅乃内ふ  
 法大なる法就上の石焼法金焼法五百基經あり



谷路

大

御鮮より秋ざる金燈籠あり此御堂へ集積  
 と申すこれ毎季正月廿日四月廿日 御名代  
 とて大なる祭勤なり矣小治云云是老律方  
 と皇代孫あり河原のり  
 ○所別不龍光院 毎朔所膳と傳ふ  
 △新宮大権現 八棟造ありあり拜殿あり  
 日光山大権現と稱し其る奇迹ハ大已貴尊平地ハ  
 多子親者あり社以とて仁明天皇此嘉祥年中

慈覺大師法蓮立あり凡國中の大社あり  
 東鑑にも及く方此権現乃所利益五穀成穡編  
 法圓滿ハ御神あり方民奉く作とま  
 ごとくありい神宝ニ 移り切見 奇世の御堂 春日  
 拍太刀の事も五尺余あり其銀あり亦小山判寢  
 是ハ奥列 泰衡進代ハ御持とま  
 冊抄珠一ツ重さ五百兩あり此御堂に御書  
 是ハ奥列 泰衡進代ハ御持とま





○大雲天堂 暹羅の佛也 ○十五堂 ○地藏石

うまじい向のよるのふら龍光院寺に於り是より

高乃方滝乃尾乃よ入 新まのり滝尾を十三丁

余あり小坂とせり中ほどに

○薬師堂 此のあり清水出るとんと海へ因と

流へを浪翳 多ふ晴る是はゆのて因洗子茶師と云

○行者堂 坂乃海のふあり本寺は行者し

ふ小道公寮亦ふ ○所番ふあり坂はかり禁ふ

○石橋ありもと森道橋 くらり大小使林の

西ありとせり一丁ほどに

△山毛社 向拝造りあり此より居あり此社

の御身の中 表は大師の造営聖真子大権現

所む古村ふ王と仰ぐ七社乃内あり

○不動堂 本寺三童子も中蓮を八作し此の

滝尾と云は流し石慮ありわろく中絶ふ ○三笠

赤倉大明神乃石社ありたの方也 ○坂中不動石佛

あつ○熊野杖を著依春八味あり飯よ  
○御別所 日老責とて食物とるむ  
者物をも其食物とて強妻とてのりあふ  
接指ふとの妻ス臭物とて強妻とてのりあふ  
大なるおれあふもあつて別所くいらあふ  
及る坊中何あはくもい事あつて繁るる  
重くけりあふとて入い御さぬとて  
所宮御霊屋 沙代此れ大なる大なるの

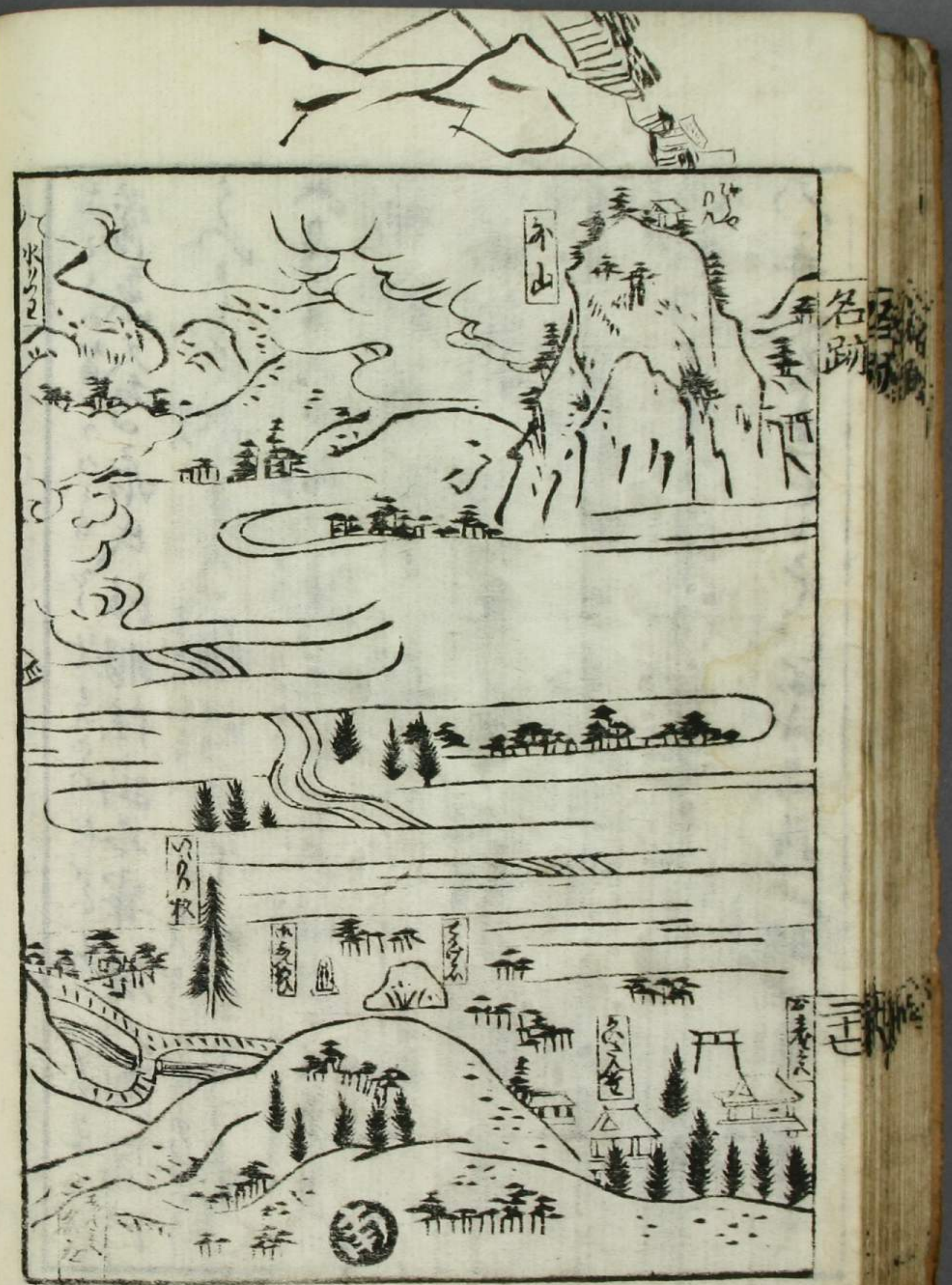
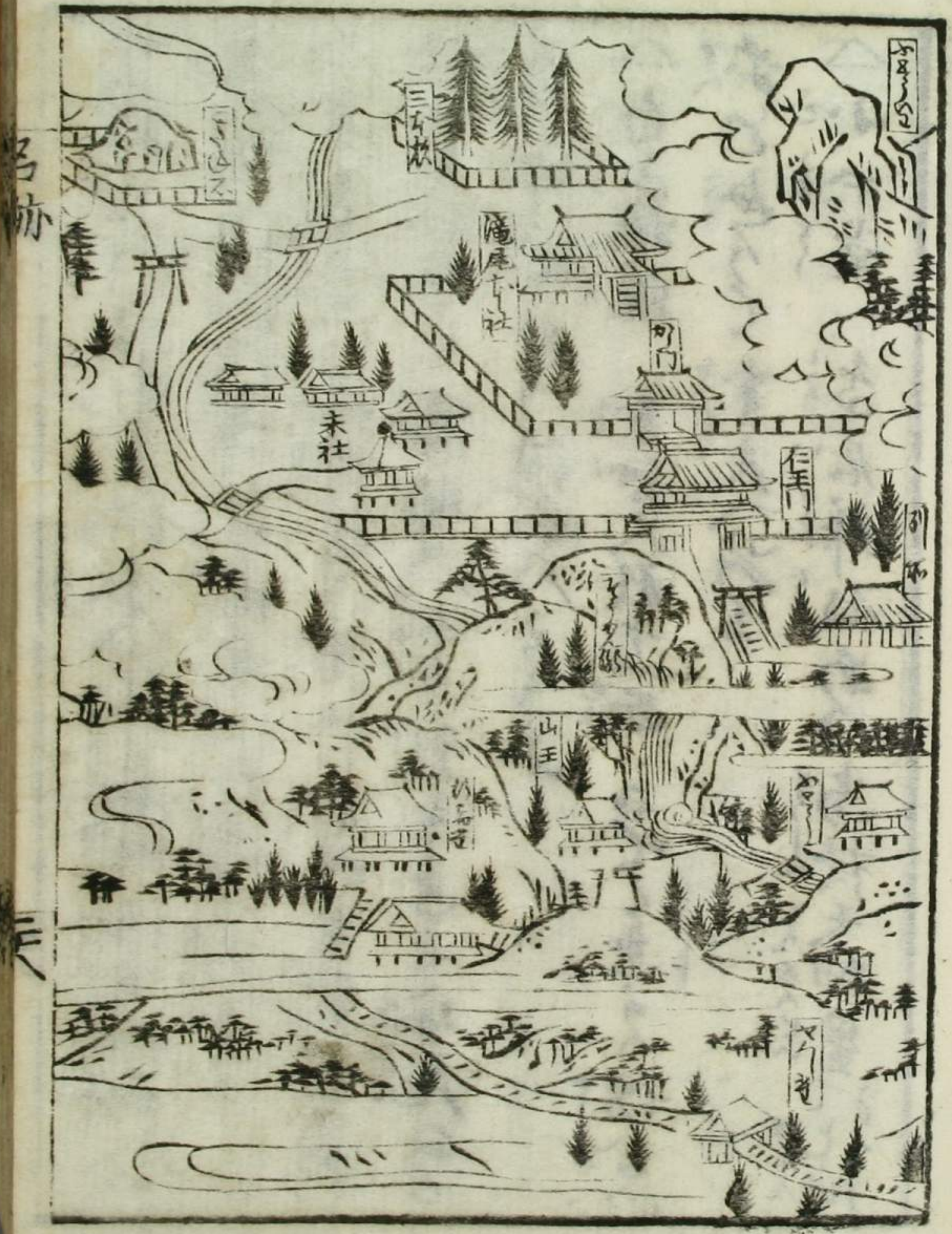
東宮へ地走のふ飯と強る半古例し  
日光の如く糖子糖祀新室木の後妻の  
あつて日老責とて強妻とてのりあふ  
て入い御さぬとて入い御さぬとて  
氏家の地老素新とあつて強妻とてのりあふ  
あつて別所あつて強妻とてのりあふ  
○正観音堂 本堂長貴人余年三番神例  
○採燈護摩所 本堂長貴人余年三番神例





△和山 いふ 昆沙門天を祀る所の鬼門に  
 あらうと云はれたる所と云ふ月三日日暮  
 く暮清夜集るといふことなり ○氷雪とてな  
 解ふも氷とて又凍るといふ ○不動あり  
 程のぬく令 ○七滝あり氷とてくつりのせし  
 七雨と為る所なりいふ所人常はてしなく  
 ○天神社 階尾の十向とてこの所あり  
 其の中へこれい寛文元年二月廿五日

菅原大を石氏法眼伝出左宰府乃聖廟  
 うへて祭事なり 稍移して延宝七丁末  
 六月廿六日彼の高法林石の社とて造る  
 神威祭事なり 斎一 △十五堂  
 △地藏堂 宝形造りなりいふ所と伝説といふ  
 本寺の座像ありて蓮の作なり并務道上人の  
 法教は十有三年の法教ありて人の如く  
 乃毎延宝を造るといふ所とて終る故不問



の形り ○日永裏に上人の法墓所法守子安の墓あり上人の法骨中禪寺上野湯小御堂あり

△御産宮 向拜造り尚社本世著賢菩薩

じあよわかろ懐胎乃女立形と述を安産あり

り奇妙形り日永乃らふ

△白山権現 本如大形十一面 えてくまの坊舎の

まをぬりて本丈(つる)

△小玉堂 鳥居拜敷あり尚社天神星化神

あり本必金輪社のいし連秘半を影

かき一是のり一丁傳りて本堂の地り入る形と

ま入り 喜ぶ事あり八堂あり

△四本龍寺 宝形あり本堂八千手觀音并次

大寺傍道とあり和と尚山岡とのとて上人住居

あり一とくろりあり

○三重塔 本寺 秋迦 文殊 普賢し

○御本社 本寺 秘教あり 本宮大権現あり





ゆきとらるる子多し此別所乃為のて森の月

△三乃宮本坊普賢菩薩 △一乃宮後神現住 いま社の

所縁所のとふまゝとてすまゝの神橋の中に入りて

西谷の坊舎並小西所はたゞ大谷川の川端とせりし

△又是より川の方より川と渡り七所程行く云々深院

ゆの真雲院と号し當山御社主 宮様所建立

鐘樓門本堂並三社程現く社一切経藏亦建り塵

外幽閑の靈場殊勝ある半云渡ふのてに御額い

戒光殿一品法親王所養筆し△南谷 西谷

善女寺谷 乃まも神橋より西小宮

乃法七八所わり并日光所奉所因代大滝

れ番等の屋敷もまた箱し是より西所へつる

寺所へハ○也軒所○原所○小袋町○本町

上中下 三下あり 大五所 神外 板枕所 ○蓮華寺 小町の

自家小田母氏いそとては格わり △妙道院 原所の

とも寺小町の寺一山の善菩提の寺也ハ○釈迦堂

本寺 住像の釈迦 文珠 普賢 惠心の所傳し

并 養眼大師の所創あり 大猷院様 殉死乃

諸士位牌あり堂の外に殉死の石碑と云り是堂より

常住不長の念佛と波も堂にうーりあり

○愛宕山大権現 寺形長日此池といふ所也此所

○八幡社 尚所の様守あり并ふ○大比呂堂 是堂の

うしりともあり宗光寺ありあり神橋あり宗光と云

所余あり是及入口の御ふ○延命堂 是堂と云り七八町

りて○池石は石のよみ不改ありてと云ふありと

又俗ふ云むいひつと云ふ馬場の中より出ぬ馬

蹄の跡ありと云ふれか六丁行りて宗光の地に入り

三本杉 尚山一の大枝めく大つと牛河あり

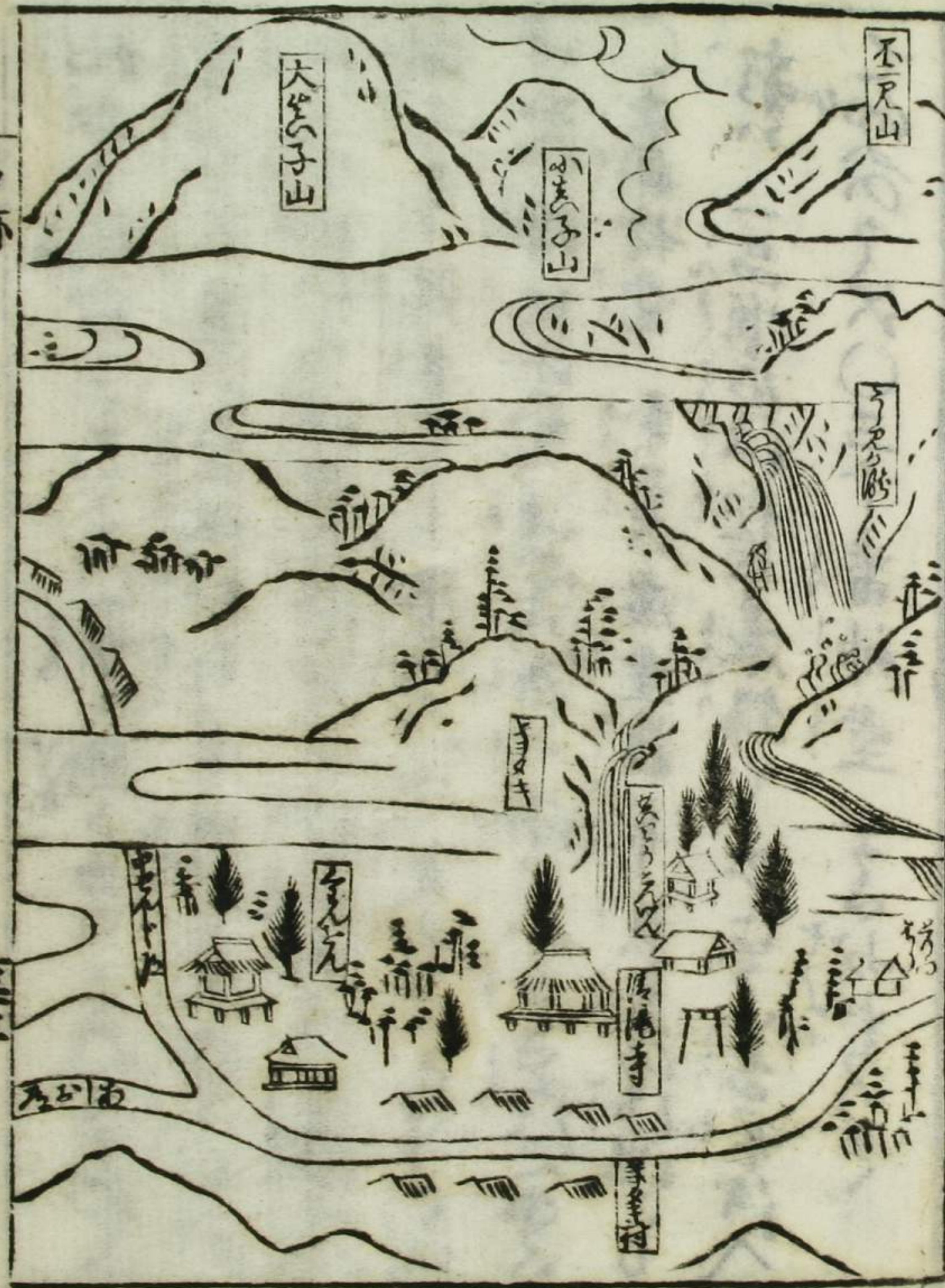
下と接と云く二乃木お對せりいよおの茶店

ありと云く六七丁ありたれり

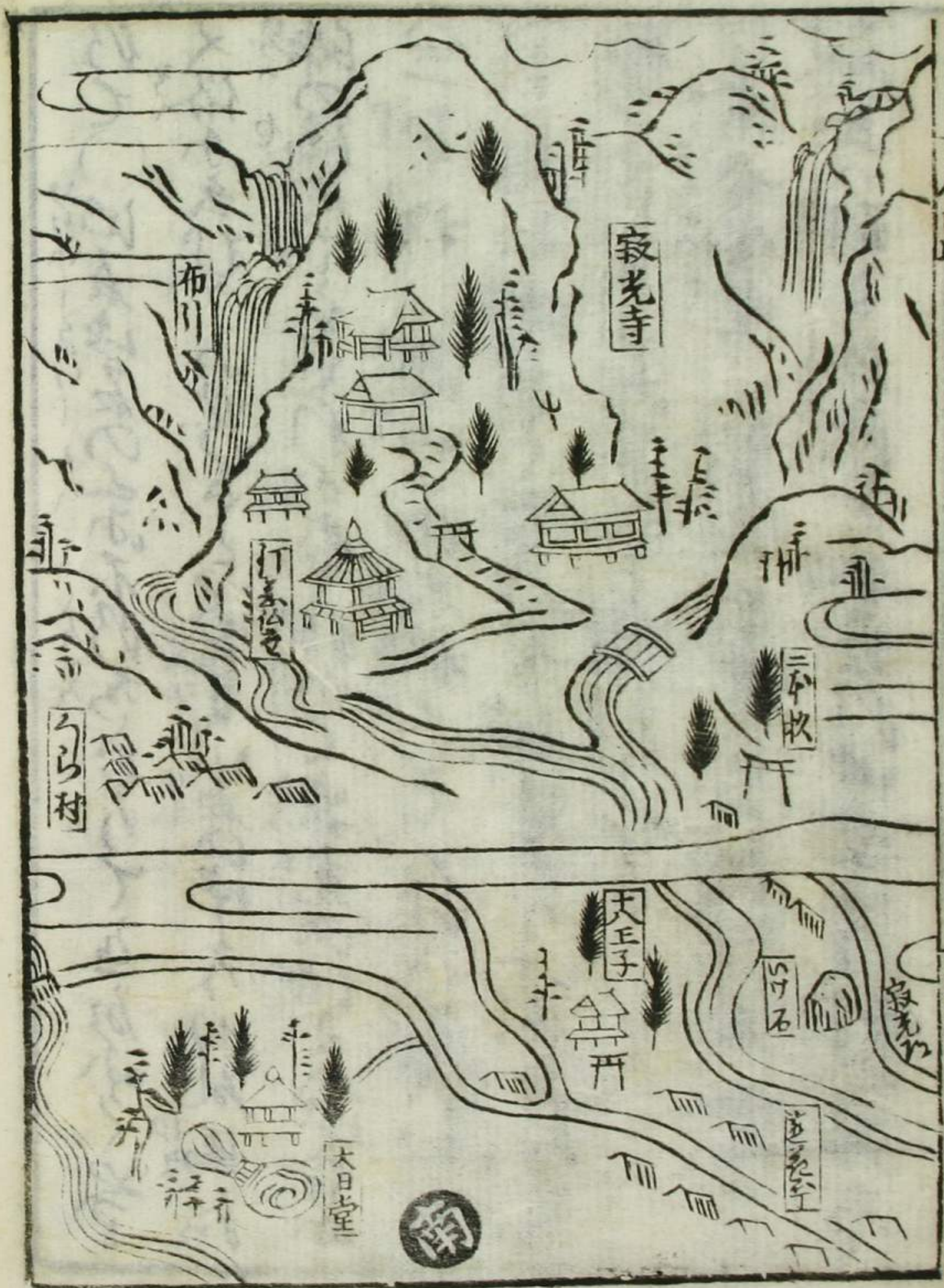
○常念佛堂 本寺の所傳三尊惠心乃法傳あり

ありと云く別は所傳と安置此堂あり釘念佛乃

名跡



名跡



札の納むると又いふは納めたるをいふて  
 常任不怠の念仏有りて御堂にいらは  
 行む仏の祖覺源上人の法教ありて是は上人  
 圖王より得たり清取乃印文なりなり  
 此の御紀ありて堂乃南に満里ふもよみ  
 ○求圓持堂 中より虚空藏菩薩尊の法也し  
 形 一品准后法親王衣飾しててよも最に入  
 て印のくは○三十番神堂 よもかありて

○不動堂并 ○三笠赤倉の神社あり又是て○群  
 ○御本社 外光大権現に下照姫命に比年成天  
 あり為社の弘仁十一度子年弘法大師御開基し  
 法室揃ひ十二の手紙白鳥乃鏡もそのお教あり  
 たりとよは滋ありとの源もろくも遠く相後  
 ありていふがごとくも教の布を晒がごとく  
 滝乃浦小出なるに岩巖のたのむらり  
 死に災起乃伊字と空海とへ書ありてあり

とふ○二子山○大馬山奥ふ令○富士のふあり  
いふより富士乃高根なるを移ゆけむ○川俣は  
温泉あり常しく女人の入湯なり 柳本社あり  
下りて○別所あり寺内小辨才天十五童子は  
安曇とて寺の長乃ふ○羽黒滝とて入湯あり  
あれより海へ系洲あり本町大工所とて海へ渡りぬ  
△往生院 以坂一山の墓あり権門の歌六法文障  
乃寺に 妙覚門とありは寺の宝物あり回ふふ

○阿弥陀堂 般若三尊乃 弥陀表目の佛ありこれ  
あり大谷川の橋とてまをむ 向河系とて小町あり  
△慈雲寺 神橋あり乃法十三町あり  
般若の慈覺大佛し涅槃の釈迦あり寺の表  
ハ大谷川なりこれあり乃て表乃し  
△護国堂 比叡合満が淵あり向ふ此堂のうへに  
不動なる佛淵と稱して寺の淵なるを  
あふは憾給の梵字ありこれあり乃て表乃し

山麓小○石幹入地産す板石ありては赤の川沿ふ  
 ○灵庇閣 比岡のり眺望する所の絶景す有  
 登るべ眼と俵とを境に流るる溪此水首河廻  
 り勢を香燗集り香燗城乃神料坐るが  
 森は深きりま向のまふ○赤柳くまの  
 高き松ぐりなむし樹北真ふ  
 ○骨堂 大なる岩と切ぬるり此中へ血脈の  
 骨は納むるの字は羅ふ子の書せる碑あり例ふ

石伝の大地産あり 産後大なる岩あり  
 善重寺のいとふなり此寺を二所傳と皆むる乃  
 境内ありなるの石ありあまのつれは  
 其の寺にそめがくはとを板石梵字名号あり書  
 するを求く信衆する事なりま川灌頂も云  
 此所を岡東に高野しと云里傳ふ紀列も野ふ  
 乃出流は長く芳なり此是地なりは山の奥ふ  
 ○素新滝あり中○平石をく十五の巻ふの











乃のりらなる五里河をぬり足尾と通り上列も  
 所なりを觀るも當よりたのこる三丁河に於て  
 水沢村をを過ぬと知るる社ありと云ふ○牛王  
 坂のりらなる一里を過ぬと知るる社ありと云ふ  
 馬込村 ありと云ふと知るる社ありと云ふ  
 女人もらなる一里あり是れを日老より二里  
 あり河をぬり○深沢茶屋あり坂は地蔵堂  
 ありと云ふと知るる社ありと云ふ○大平

○不動堂 石神する也よりなるは神の平  
 野の坂し是よりありは下河をぬりと知るる  
 ○大尾とらぬは○神子ありと知るる社ありと云ふ  
 ○牛石あり茶屋ありは河をぬり是より二丁  
 橋御門 ありと知るる社ありと云ふ  
 駕りりり赤笠とぬりは是より入る  
 中禅寺別所 補陀落山中禅寺是より入る  
 是より入る者居難と知るるは是より入る

ふたつにわたりて元々鐵山より多き山ありて今一山あり  
経者も此山に別て八位峰あり今と傳へるは鐵山也  
其峰も人少くも多き記者好くも汚濁る如く  
て信行の跡をたゞ事なりとて尋ねあり  
半徑八十里ありて水多き如く記するも事なり  
あとう一山あり湖水長三里幅二里ありて一里あり  
傍ありて西面は茂林脩竹ありて湖茶蓋あり  
ついでに山ありて水多き如く記するも事なり

深きれを魚いしるも此山に珠ありて山ありて  
熱くも水多し大湖三ありて水多し如く記す  
も此山十八湖ありて水多し山の頂ふ多く湖あり  
奇代乃其山ありて水多し如く記す○後山ありて  
ありて水多し如く記す○後山ありて水多し如く記す  
○不動堂 本号夫夫明王 ○妙見社 又夫夫のふも云し  
○立木觀音堂 本号千手觀音法長一丈六尺八寸

曰天王像あり傍に上人立本とての像小彫刻  
 此の寺像殿東十八番乃礼西の素指の人用帳  
 と此の寺別所の聖母のひ屋をて用帳する  
 凡佛の例なり是像あり 其大寺の像弘法の  
 地勝道とて人の御新あり

○御本社 亦に辨及あり 尚社大権現の日光  
 三社乃本社に 奉世弥陀子馬延慶年中  
 乃法蓮堂の神室ハ 蘓悉地經一卷 金字乃

法華經一部 八葉の鏡一面 水中の香爐 赤坂の  
 算策一管 海竜王の赤坂一紙 善無畏の音  
 授子乃珠板 緒乃上人法蓮堂の厨子あり 降る  
 幅杖いふあり 毎年正月雪月氏射の系  
 とくぬり 杉百高のく上別赤城に方以びる  
 矢と放の赤城の馬社の神敵なりとの矢矢則  
 赤城明神乃鹿に立氏子は日矢何とては  
 秋朝の矢と放とて是里ありふりて

氏子比山(中)に坐して山ありて半し本社ありて  
男麓山(中)に坐してありて山ありて○碑ありて古  
補陀庵(中)に坐してありて山ありて古  
准之后公辨親王(中)に坐してありて山ありて古

○男體山(中)に坐してありて山ありて古  
山(中)に坐してありて山ありて古  
積雪(中)に坐してありて山ありて古  
乃剛と徹(中)に坐してありて山ありて古  
行はく(中)に坐してありて山ありて古

○本寺(中)に坐してありて山ありて古  
○三社(中)に坐してありて山ありて古  
○至(中)に坐してありて山ありて古  
○紀(中)に坐してありて山ありて古  
○戒壇堂(中)に坐してありて山ありて古  
○根本社(中)に坐してありて山ありて古  
○三重塔(中)に坐してありて山ありて古



石亦

石亦



石亦

石亦



湖水乃びうふとほりふるん女は

○歌乃濱 ありいじうー神軍に討つる海

ひるし凱陳ありて徳率の神進并ありて

うしひのゆふくは名付ありとて 奉告

吉祥天并小弥勤菩薩金剛童子ありて又祀供

乃入魂山伏の宿あり毎年三月十三日入

宵廿二日に出来たりれと花供の奉といひ

すゝまの難所し相中ありてくみり

○寺ヶ崎 兼師堂 ○日輪寺 夫より

橋乃北河あり ○上野池 湖中乃橋一丁

河方河とあり橋乃北河皆は池小細あり

○梵字石 ○龍燈石 ○徳石

○千手が濱 観音堂并に法徳所あり 奉告

千手観音橋乃乃河池 ○毎年六月廿日入り

七月まで乃俗一七日乃行はく演祥項とく

無不系為乃乃形を稀もめ字信公堂園の

新積なる此河ハ去れ別ニ一一夜新の地多の地  
あり牛乃判るも大ゆきし後多し乃其景も  
ありぬる好き御あり右此濱多し

○風風水 ○紅葉の浦 ○御所の滝 ○大崎

○大尻 ○宇治の滝 ○言浦の滝 ○獅子の洞

○金ヶ毛 ○此の多景多し ○湯ヶ毛乃乃判る

ありとあり後多しと一里後多し ○萬福の洞

此の多景あり判るて ○赤沼の東 幾多あり

比原二里四方もあ人声く尚山の古神の古残あり

とりのまゆに此多し ○弓張橋 ○暮景の多し

てあり此京に鶴一壽ありびりり居るこの

鶴ハ日光格現の神鳥はく年毎に子供あり

もとの雛籠いづらにくとととあり此の

ありとあり此京を去るもし入木の此は

ありとありの死を風よらとて咲は

ありとあり風と得て一時は年々紅白枝と



○女峰山 ○太師嶽 ○月山 ○白根山

○湯殿山 男爵山乃山のこぼれ水あり如神の玉

湯及ゆとて選せし其湯及ゆとて動て

此更あらし喜見ヶ原の乃嶽と名りゆし

○華嚴滝 是は中禪寺御座大尾神子石の山

より立下りゆしは流の流りなり

尋の布と曝きし初く其まきき半一丈ゆ

ぬと銀漢より酒あらしとていひゆりゆ

銀河倒掛三石梁 香盧瀑布遙相望と作

きるものゆり中をゆりゆりゆり大あど

滝と名りる不用のゆりゆりゆりゆりゆり

流のまきい奇樹灵州の花結は流りゆり

びあらし○大平不動堂のゆりゆりゆり

下向して喜見ヶ原へゆりゆりゆりゆり

乃あらし一里ほどゆりゆりゆりゆり

いづるゆり



○香滝滝、一里半 神橋の下の河床と云ふが好し

○おけし地蔵、三十余 くれい小倉山のひりし

○湯敷山、三重 〇中禪寺湯元、六重 〇川俣湯元、八重

○足尾、六重 足尾と云う上列妙徳山伊香保縁をへ

ゆくし日光より妙義まで二十七里余

〇今市、二重 此所段木のうゝ森乃内所 云々湯系差あり 日光湯用のうゝめ 湯代友前 山ありし

△今市より 〇宇教文、七重 〇麻沼、一重

〇太田原、土里半 〇高取、八重

△宇教文通、今市所入台ひり

日光、今市、二重

今市、大沢、二重

大沢、上徳良、二重

中徳良、一重

下徳良、二重

此宿舎は名産をたれりしなり  
大谷寺親善なるがあり下  
徳良より一里半ほどあり

△麻沼通、今市所と二重

今市、板橋、三

今市所より一里半板橋あり

ゆりたのこの大谷よりへ

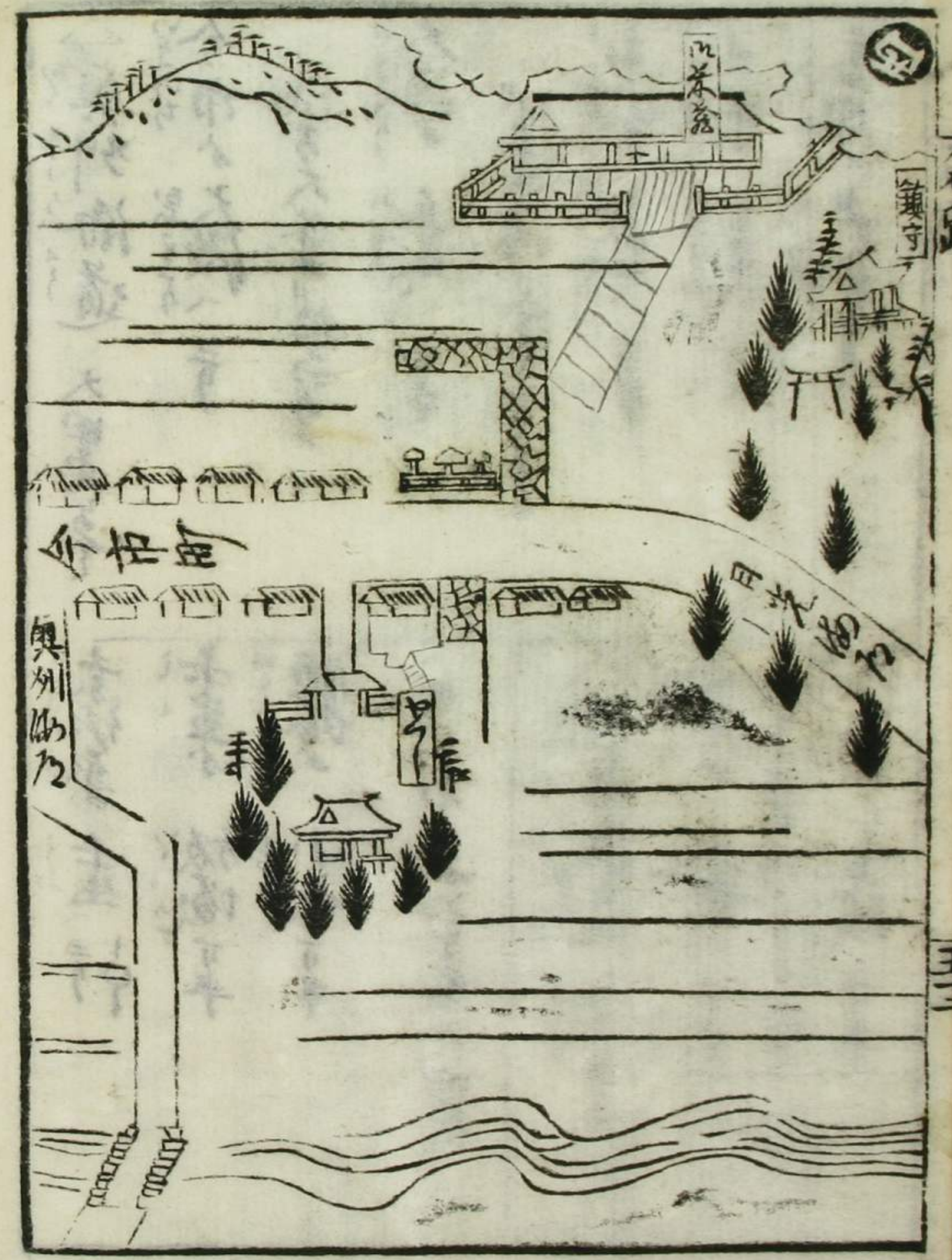
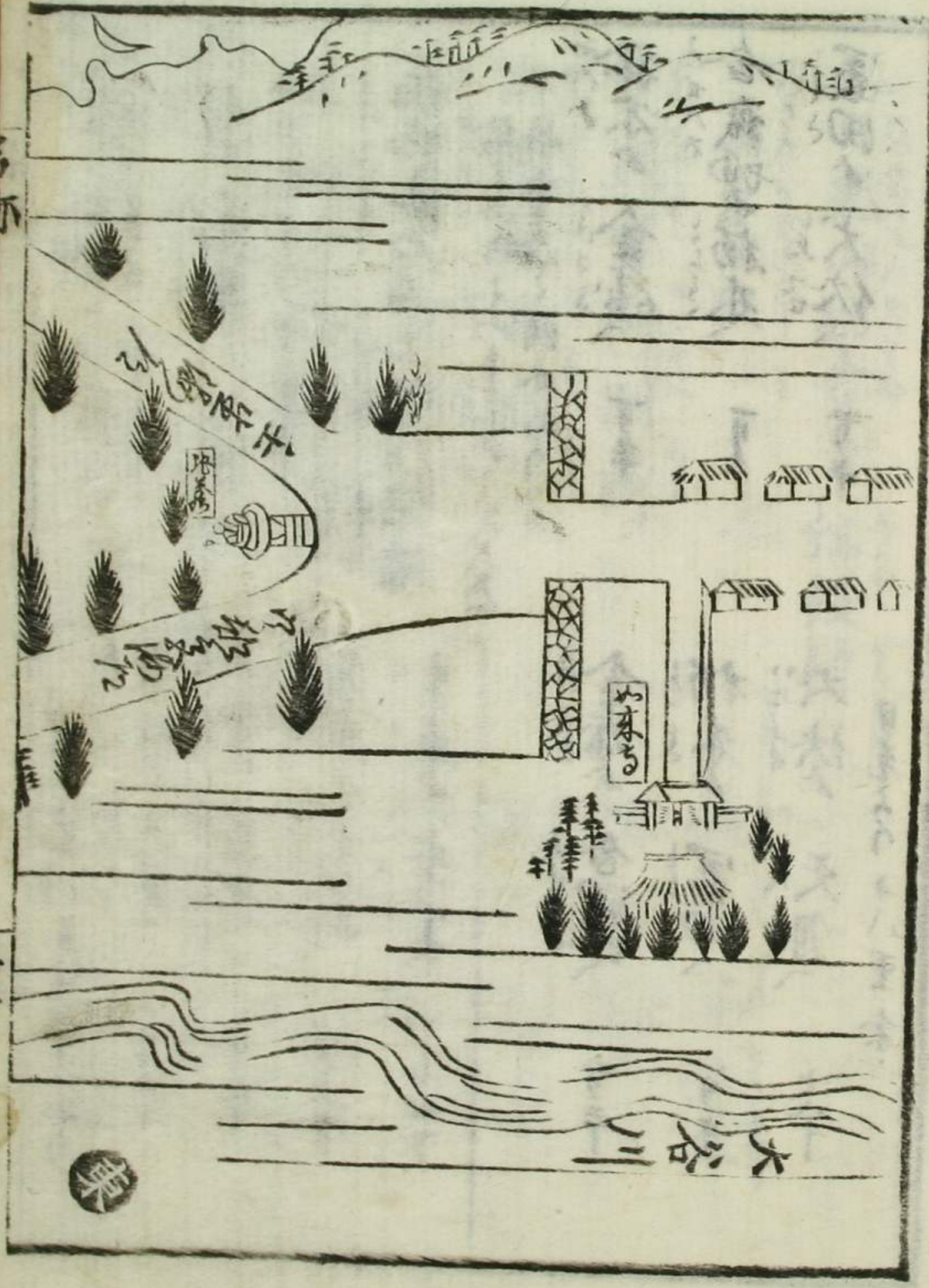
板橋、麻沼、二重

二宿の宿文棟といふ宿

あり日光より一里半ほどあり

ゆりたのこの大谷よりへ







天板 沢村へ 一リ

沢村 大田原へ 一リ半

●日光より十三里半

△佐野海老井上列の順路

橋本の町より西へ入る  
依聖乃と橋本あり

橋本 金湯へ 一里半

合我地 橋本へ 一リ

富田 大伏へ 一リ半

いりふ川よりあり

大原 大原へ 一リ半

大原 大原へ 一リ半

大原 大原へ 一リ半

大原 大原へ 一リ半

金湯 合我地へ 一リ半

橋本 富田へ 一リ半

大伏 天明へ 一リ半

日光より十八里余

△日光山坊舎并結後僧正

一山学所

東照宮御別所

御霊屋御別所

新宮御別所

慈眼堂御別所

○飛騨中二十坊并  
戸伏上縁及 唯公院 東山

結学院僧正

大樂院

龍光院

安親院

毒量院

結大念氣宿坊附

井伊掃部及 南照院 東山  
松平肥後及

松平右京大夫 松平相模守殿	松平薩摩守殿 毛利周防守殿	松平後理木大夫 酒井井井守殿	松平伊豆守殿 教野越中守殿	土屋但中守殿 太田備中守殿	吉田豊後守殿	松平加賀守殿 松平山守殿	松平陸奥守殿
安居院 東山	熱城院 日	橋本院 日	善本院 日	醫王院 日	慈念院 日	法門院 日	觀音院 中山
尾列棟	日增院 東山	放城院 日	禪智院 日	獲光院 日	花菰院 日	糠源院 日	淨土院 中山
松平大炊頭殿 酒井兵衛守殿	松平上代守殿 松平安房守殿	松平大炊頭殿 酒井兵衛守殿	松平大炊頭殿 酒井兵衛守殿	松平大炊頭殿 酒井兵衛守殿	松平大炊頭殿 酒井兵衛守殿	松平大炊頭殿 酒井兵衛守殿	松平大炊頭殿 酒井兵衛守殿

松平近衛  
松平近衛  
松平近衛  
松平近衛  
松平近衛  
松平近衛  
松平近衛  
松平近衛

光樹院 中山  
照善院 南谷

○一坊八十字

●東山谷

松平近衛 松平近衛	松平近衛 松平近衛	松平近衛 松平近衛	松平近衛 松平近衛	松平近衛 松平近衛	松平近衛 松平近衛	松平近衛 松平近衛	松平近衛 松平近衛
松平近衛 松平近衛	松平近衛 松平近衛	松平近衛 松平近衛	松平近衛 松平近衛	松平近衛 松平近衛	松平近衛 松平近衛	松平近衛 松平近衛	松平近衛 松平近衛
松平近衛 松平近衛	松平近衛 松平近衛	松平近衛 松平近衛	松平近衛 松平近衛	松平近衛 松平近衛	松平近衛 松平近衛	松平近衛 松平近衛	松平近衛 松平近衛

●佛岩谷

西住坊 祐源坊

正定坊 妙力坊

竜虎坊 孝親坊

妙日坊 通念坊

●南谷

佛泉坊 奉月坊

深江坊 通火坊

光念坊

澤久坊

庵親坊

妙慶坊

秀親坊

光善坊

横波坊

親海坊

大月坊

秀宗坊

掖了坊

通孫坊

無性坊

醍醐坊

●西山谷

不軸坊

極心坊

正清坊

唯寂坊

仲春坊

与光坊

智親坊

高親坊

慶住坊

什光坊

善喜坊

持法坊

頌善坊

深如坊

正花坊

永南坊

行実坊

妙海坊

秀秋坊

冬福坊

親徳坊

秀泉坊

●善女寺谷

住持西本寺谷の社あり

亦

三

正足坊	散光坊	安光坊	大林坊
松表坊	妙音坊	文月坊	光禪坊
林守坊	深教坊	理宣坊	禪光坊
道龍坊	金壽坊	蓮勝坊	明教坊

日光名跡誌 大尾解理



享保十三戊申天如月元版  
 明和元甲申仲秋改版

新板

日光山石屋町

御免板元

遠藤喜六



明治二十三年十月三日

代價

子村

賞

中条

其川